

レル。又初乳ノ protein ハ母體ノ血清蛋白ト類似シテ居ル。又 Jaschke 及ビ Lindlig 等ハ Abderhalden ノ方法ニヨツテ、初乳中ニ含まル、albumine, Globuline ハ Milchliweiss ノソレト反對ニ、Blutfremd トナラヌト言ツテ居ル。又初乳ノ蛋白ハ腸管ヲ破壊サレズニ通過シ得ルモノデアル。又 Jaschke 氏ニヨレバ、初乳分泌ハ 8 Wochenbettage 迄續ク。

然シ Mittelmilch(3—10 週)デモ不定デアアルガ、初乳ガ證明セラレル。

又乳房分泌不充分ナ早朝ノ乳汁ニハ初乳ノ

量ガ増加シテ居ル。

#### 結 論

(1) Luesreagine ハ化學的生物学的關係ニ於テ、血清ニ於ケルト同様初乳ニ存在シテキル。

(2) Milch ニヨル Wa-R 陽性が陰性ト成ルノハ、初乳ノ減少及 Milch ノ分泌増加ト並行スル。

然シ 3—10 週ノ Mittelmilch デモ、初乳ヲ含ム間ハ、適當ナ技術ヲ以ツテスレバ、弱陽性反應ヲ證明シ得ル。

## 雜

## 報

### ○學術集談會開催 十二月十七日(木)

午後一時ヨリ所内講堂ニ於テ高木教授ノ歸朝歓迎ヲ兼テ左記ノ通り學術集談會ヲ開催セリ、演題下ノ通り、

一、フロックラシオン」ハ「デフテリア毒素抗毒素間ノ特異性反應ナリヤ

寺尾 秀三君

一、腔内細菌特ニ乳桿菌及ビ「エンテロコクケン」ノ研究

第一報 初生兒腔内菌ノ研究

小島 三郎君

眞柄 正直君

小豆畑久治君

一、節足蟲類ノ病害關係概説

山田信一郎君

一、ブラジル管見

高木 逸磨君

### 學友會へ寄附

一金貳百參拾六圓六拾四錢也 鍋瀨國一君

### 12 月中職員異動調

11.30 醫師試験委員被仰付

教授 二木 謙三

12.21 昭和6年12月18日付願 研究生退學ノ件許可ス

小島榮次郎

12.24 昭和6年12月24日付願 研究生繼續ノ件許可ス

畑田 良造

ニ比シ各々 29%、49%、50%ノ減少セル價ヲ得タリ。然ルニ KI 加中性液ニ於テハ對照ト略々一致セル價ヲ得タリ。

著者ハ先キノ實驗ニ於テ KI ノ過剰ヲ加ヘシモ、KI ノ如何ナル量ヲ加ヘルコト最モ適當ナルヤヲ定ムコトハ重要ノコト、ス。依ツテ著者ハ KI ノ種々ノ量ヲ加ヘ、酸性液、中性液ニ於テ Glutathione ノ定量ヲ試ミルニ、中性液ニ於テ KI ノ過剰ヲ加ヘシ時ハ「ニトロプルシッド、ナトリウム」ヲ標示藥トシテ使用セルモノ、價ニ略々一致スレド KI ノ少量ノ時ハソノ價ハ幾分高ク現ハル。又酸性液ニ於テハ KI ノ過剰ヲ加フルモ對照ニ比シ低

キ價ヲ示メスコトヲ經驗セリ。

即チ以上ノ諸實驗ヨリスル時ハ、澱粉糊ヲ標示藥トシテ沃度法ニテ Glutathione ヲ定量スルニ當リ、可檢液ニ KI ヲ加フルコトハ不純物含有物ノ KI ト反應スルコトヲ遮ゲ終反應ヲ安定スレド可檢液ガ中性ニアラザレバ、且又同時ニ KI ガ過剰ニ存在スルニアラザレバ、コノ固有ノ働キヲ最モ正確ニ現ハサズ。

即チ著者ハ Perlzweig & Delrue 氏等ニヨリテ改良セラレタル Tunicliffe 氏變法ヲ使用スルニ當リ、可檢液ヲ必ず中性溶液トナシ定量スルコトハ本法ヲヨリ正確タラシムタメ極メテ重要ナルコトヲ知レリ。

## 雜

## 報

### ◎學術集談會開催

1月28日(木)午後1時ヨリ所内講堂ニ於テ學術集談會開催サル。演題次ノ如シ。

1. 溶血ノ時間的經過ニ就テ  
守山 英雄君
2. 實驗的秋疫ノ蒼鉛療法  
附、ワイル氏病患者ノ蒼鉛治驗  
守口 武次君
3. 志賀赤痢菌ノ變異ニ就テ  
高田 眞君
4. 免疫性ノ遺傳ニ關スル研究  
小野 忠則君

5. ブラジル管見 高木 逸磨君

### 學友會へ寄附

- 一金九圓八拾錢也 山内光雄君  
一金四拾四圓四拾四錢也  
小島三郎君  
平山輝夫君

### 1月中職員異動

昭和7年2月1日調傳染病研究所

- 1.11 昭和7年1月10日付願  
研究生繼續ノ件許可ス 土本 重
- 1.19 昭和7年1月16日付願  
研究生繼續ノ件許可ス 池井新彌

# 雜 報

## ◎細谷省吾、島崎正雄、菅勝 征ノ諸氏充員召集サル

上海事變ノ擴大ニ伴ヒ、2月末前記ノ諸氏充員召集サレ、所員一同ノ熱誠溢ル萬歳ノ聲ニ送ラレ、ソレゾレ部署ニ就カル。

## ◎出征軍人留守宅慰問會生ル

本研究所職員中出征セラル方々ノ留守宅慰問ソノ他後援ヲ目的トスル慰問會ハ春秋會主催ノモトニ城井技師ヲ委員長トシ外若干名ノ委員ヲ以テ組織サレ、毎月出征者ノ留守宅ヲ訪問シ、慰安、後援ソノ他ニ就キ機宜ノ處置ヲ講セラルコト、ナル。

## ◎黒屋政彦、井村睦全ノ兩氏 上海ヲ引上グ

上海自然科學研究所ニ研究中ノ兩氏ハ今回ノ事變ニヨリ、兵火ヲ避ケ一時歸國、當分傳染病研究所ニ在ツテ研究サルコト、ナル。

## ◎學術集談會開催

2月25日(木)午後1時ヨリ所内講堂ニ於テ學術集談會開催サル。演題次ノ如シ。

1. 種痘腦炎ノ成立機轉ニ關スル實驗的研究  
池井新彌君
2. 白米ト「リゾレチチン」(綜説)  
蛇毒ト「リゾレチチン」  
細谷省吾君
3. 上海雜感  
黒屋政彦君

## 2月中職員異動

- 1.14 満期退學 研究生 小野 忠則

- 1.30 依願免本官 技師 黒屋 政彦  
1.31 依願傳染病研究所ニ於ケル病理學研究業務囑託ヲ解ク 佐藤 清  
,, 依願傳染病研究所ニ於ケル微毒ニ關スル血清學研究業務囑託ヲ解ク 村田 正太  
,, 依願傳染病研究所事務取扱囑託ヲ解ク 井上 邦三  
2.1 愛知縣下へ出張ヲ命ズ 囑託 横井鎌次郎  
,, 東京府下へ出張ヲ命ズ 同 福島 伴次  
2.5 昭和7年2月6日付願研究生退學ノ件許可ス 中島 勝美  
2.10 醫學博士ノ學位ヲ授與セラル 技手 菅野 拓三  
2.17 傳染病研究所血清檢定委員囑託ヲ解ク 佐伯 矩  
2.20 昭和7年2月20日付願研究生入學ノ件許可ス 小澤 英作  
2.25 充員召集(高崎歩兵第十五聯隊) 囑託 島崎 正雄  
2.26 同 (東京第一衛戍病院) 助教授 細谷 省吾  
2.27 同 (東京第一衛戍病院) 囑託 菅 勝 征  
休學ヲ命ス 研究生 清水 重矢  
2.29 昭和7年2月29日付願研究生退學ノ件許可ス 池井 新彌

## 學友會へ寄附金

- 一金五圓貳錢也 木村 政長君  
一金五拾圓也 林 敏雄君

拘ハラズ酸素ニ依ル阻止ハ大ニ減退スルヲ見ル。

以上ノ實驗ヨリ著者ハ次ノ如ク結論セリ。

1) 酸素ヲ aktivieren スル Enzym ト硝酸鹽ヲ aktivieren スルモノトハ其ノ性質全ク異ル。

2) 硝酸鹽ハ formate, lactate 及 ビ succinate ヲ夫々 carbon dioxide, pyruvate 及 ビ fumarate ニ酸化ス。

3) 硝酸鹽ノ還元ハ cyanide ニヨリテ阻止セラル、モ CO ニヨリテ阻止セラレズ。

(黒屋)

## 雜

## 報

### 長與所長全快祝賀會

久シク病中デアラレタ長與所長ガ、全ク健康ヲ恢復サレタノテ、3月5日午後1時カラ所内講堂テ春秋會春季慰安會ヲ兼テ全快祝賀會ガ開カレタ。丁度觀梅會ノ頃ナノテ、例年ナレバ梅林テ盛大ナル園遊會ガ開カル筈デアツタガ、滿洲上海事變テ時局多端ノ際テモアリ、多少遠慮サル所ガアリ單ニ講堂テ開カルコト、ナツタ。定刻ニハ全所員悉ク參集シテ、健康ヲ從前通り恢復サレタ所長ヲ歡ビ迎へ、マツ城井博士立ツテ賀詞ヲ呈シ、長與所長カラ鄭重ナ謝詞ガアツタ。最後ニ二木博士ノ發聲テ長與所長萬歳ヲ三唱シ、感激的ナ場面ヲ見セタ。更ニ食堂テ壽司、折詰、ビールヲ祝杯ヲ擧ゲタ。尙地方ノ傳研學友會ヨリ多數祝電ガアリ、大阪カラハ福おこし數百袋ノ寄贈ガアツタ。

### 學術集談會開催

3月17日(木)午後1時ヨリ所内講堂ニ於テ學術集談會開催サル。演題次ノ如シ。

1. 札幌及ビ千葉部隊ニ於テ流行ヲ來セン  
パラチフスB型菌株ニ就テ  
白川初太郎君
2. 長距離競走選手ノ尿中乳酸量ノ定量ニ  
就テ  
中込 亘君  
佐藤 久藏君  
臼杵 仁君  
木村 政長君
3. 脂肪酸類ノ結核菌發育ニ及ボス影響ニ

就テ 若林 宏君

4. 睪丸間細胞ノ内分泌ニ就テ  
正常及ビ潛在睪丸ノ細胞學的研究

市井 正次君

5. ヴィタミンB缺乏症ノ諸症狀(綜説)

河本 禎助君

### 細谷、菅兩氏凱旋

上海ニ出征中デアラレタ細谷、菅兩氏3月26日午後4時品川著、目出度凱旋サル。

### 學友會懇親會

名古屋市テ開催サレタ各醫學會ニ出席ノタメ同市ニ集マレタ會員ノ歡迎ヲ兼テ懇親會ガ地元會員幹事ノモトニ、4月2日午後6時カラ同市覺王山向陽館ノ大廣間テ開催サレタ。出席サレタ會員ハ、80名テ稀ニ見ル盛會デアツタガ、加フルニ美妓30名ガ酒宴ノ間ニ侍ツタノテ、一段ノ濃カナ情緒ガ加ヘラレタ。尙餘興トシテ、義太夫野崎村、長唄楠公、角兵衛獅子最後ニ總踊、棒ぐる花ガアリ、10時半盛會裡ニ散會。

### 學友會へ寄附金

金拾圓參拾貳錢也 石井信太郎君  
金八拾五圓五拾參錢也 北條 圓了君

### 3月中職員異動調

- 3.1 陸絳高等官二等 教授 佐藤 秀三
- 3.7 昭和7年3月5日付研究生入學ノ件許  
可ス 門脇 良徳

- |      |                       |     |         |      |                           |           |      |
|------|-----------------------|-----|---------|------|---------------------------|-----------|------|
| 3.15 | 敘正五位                  | 教授  | 佐藤 秀三   | 3.31 | 傳染病研究所直江津出張所土地建物管理囑託ヲ解ク   | 米澤 圭之助    |      |
| 3.28 | 愛知縣下へ出張ヲ命ス            | 教授  | 二木 謙三   | „    | 愛知縣下へ出張ヲ命ス                |           |      |
| „    | 同                     | „   | 宮川 米次   |      | 助教授                       | 細谷 省吾     |      |
| „    | 同                     | „   | 高木 逸磨   | „    | 依願傳染病研究所ニ於ケル看護婦長事務取扱囑託ヲ解ク | 古川 ヨシ     |      |
| „    | 同                     | „   | 三田村 篤志郎 | „    | 陸軍派遣學生退學                  |           |      |
| „    | 同                     | „   | 田宮 猛雄   |      | 一等獸醫                      | 市井 正次     |      |
| „    | 同                     | „   | 佐藤 秀三   |      | 一等軍醫                      | 白川 初次郎    |      |
| „    | 同                     | 技師  | 城井 尚義   | „    | 同                         | 二等軍醫      | 小口 亘 |
| „    | 同                     | 助教授 | 小島 三郎   | „    | 傳染病研究所ニ於ケル看護婦長事務取扱ヲ囑託ス    | 小鹿島 レキ    |      |
| „    | 同                     | 囑託  | 田宮 貞亮   | „    | 傳染病研究所ニ於ケル治療研究業務囑託ヲ解ク     | 木村 次郎     |      |
| „    | 同                     | 技手  | 羽里彦左衛門  | „    | 同                         | 渡會 陸二     |      |
| „    | 同                     | „   | 武田 德晴   | „    | 依願免本官                     | 技師 石原喜久太郎 |      |
| „    | 同                     | „   | 若林 宏    | „    | 依願免兼官技師兼教授                | 同         |      |
| „    | 同                     | „   | 中込 亘    | „    | 依願免本官                     | 技手 宮下 義信  |      |
| „    | 同                     | „   | 岸田 秋彦   |      |                           |           |      |
| „    | 同                     | 囑託  | 安川 隆    |      |                           |           |      |
| 3.31 | 昭和7年3月31日付願研究生退學ノ件許可ス |     | 村田 廣次   |      |                           |           |      |

菌的ナルヲ要ス。

次ギニ培養ノ條件トシテ、酸素ノ供給ヲ最大トナスヲ要スルガ、ソノ際特ニ注意スベキハ、普通ノ組織ノ場合ト異リテ、Plasmaノ層ガ餘分ニ介在セルコトナリ。若シ培養組織ニ對シテ充分ノ酸素ノ供給ヲナサントスレバ、コノ凝固セルPlasma層ニ對シテ充分ニ酸素ヲdiffundierenセシムベキニシテ、要スルニPlasmaノ厚サヲ一定限度内トスルヲ要ス。

今Plasma厚サヲdトスレバ、dハ次ノ關係アリ。

$$d = Po \frac{D}{A}$$

但シPoハGasraum内ノ酸素壓

DハDiffusionskonstante

Aハ組織ノ單位面積單1時間ニ於ケル酸素ノ消費量

而シテ先キニ、Osteoblastenノ培養ニ於テ極メテ薄キPlasmaノ層ニテ呼吸ヲ檢セシニ、其價ハ3, 1.10<sup>-4</sup>ccmニシテ、又Gelatineニ對スル酸素ノDiffusionskonstanteヲ檢セシニ溫度40°ニ於テハ、一氣壓ノモトニ2, 9.10<sup>-5</sup>ナルヲ知レリ。今假リニ、コノ價ヲPlasmaノDiffusionskonstanteニ代用スル時ハ、dノ價ハ0.093cmトナル。即チ充分ナル酸素ノ供給ニ對シテハPlasmaノ厚サハ大約1cmヲ越ユルコト能ハズ。

I) 吸收サレシ酸素量ノ測定

呼吸ノ測定ノ際ニ於テ、特ニ注意スベキハ、培組織面ヲ覆フPlasma層ガCO<sub>2</sub>ヲ吸收ス

ルコトニシテ、之ガ爲メ培養Mediumノ酸度ハ高マリ、組織ノ發育ヲ害スコト少カラズ。依ツテ著者ハコノ缺點ヲ除クタメPufferトシテNaH<sub>2</sub>PO<sub>4</sub>, Na<sub>2</sub>HPO<sub>4</sub>トヲ適當ノ割合ニ加ヘ、酸度ヲ一定ニ保ツコトニ務メタリ。

今是等ノ點ヲ考慮シテHerzfibroblastenkulturニ就テ呼吸ヲ測定セシニ、消費サレシ酸素量ハ、培養後19時ヨリ43時ノ間ガ最モ大ニシテ漸次下降スルヲ見タリ。

II) aerobノモトニ於ケル酸形成ノ測定

aerobノ状態ニ於ケルGlykolyseノ測定ハ實驗ノ性質上、2個ノGefäßヲ用ヒテ測定スルコトヲ得ザルヲ以テ、Garraumニ對シテ液體ノ量ヲ少クシ、假リニ呼吸商ヲ1ト假定スル時ハ、單一ノGefäßヲ以テ測定シ得ルモノニシテManometerノ壓ノ上昇ハ僅カノ誤差ヲ以テ、實際上發生セル酸量ニ相當ス。カ、ル状態ニテOsteoblastenノ培養ニ就キaerobeGlykolyseト發育度トヲ比較セシニ、ソノ關係ハ可ナリ長ク一致シテ消長ス。今1例ヲ示メセバ、Embryonalextractヲ加ヘシモノ、加ヘザリシモノトノ間ノCO<sub>2</sub>形成度ヲ培養時ニ於テ見ルニExtractヲ加ヘザリシモノニ於テハ、32%上昇セルニ過ギザルニ、Extractヲ加ヘシモノハ123%ノ上昇ヲ示メシ、ソノ間著明ナル差違ヲ見ル。之レモトヨリ兩者ノ間ノ發育度ノ相違ニ基クモノニシテ、是等ノ點ヲ考ヘレバ、Glykolyse程度ヲ測定スルコトニヨリ一面培養組織ノ發育度ヲ知ルヲ得ベシ。

## 雜

## 報

### 講習開講式

4月11日午前10時所内講堂ニ於テ第71回講習開講式ガ舉行サレタ。尙講習生ハ64名ノ多数テ、内12名ハ本學出身ノ新醫學士、7名

ハ官廳派遣ノ防疫醫、3名ハ陸軍委託學生、13名ハ女醫、残り29名ハ一般開業醫、獸醫、藥劑師、齒科醫、新ニ傳研入學ノ研究生ノ諸氏デアル。

**學術集談會開催**

4月21日午後1時ヨリ所内講堂ニ於テ學術集談會開催、演題ハ次ノ通りデアツタ。

1. スピロヘータ、デンテイウムノ純培養ニ就テ 中本爲治郎君
2. 既製内服ワクチン成分ノ檢定法ニ關スル研究 栗本 珍彦君
3. 溶血ト無機鹽類トノ關係 守山 英雄君
4. 大原菌ニ就テ(綜説) 二木 謙三君

**學友會へ寄附金**

金壹百五十圓也 小島榮次郎君

**四月中職員異動調**

- |      |                         |    |       |      |                           |       |
|------|-------------------------|----|-------|------|---------------------------|-------|
| 3.31 | 依願免本官                   | 技手 | 高橋市五郎 | 3.31 | 傳染病研究所ニ於ケル治療研究業務囑託ヲ解ク     | 毛利 勝利 |
| „    | 同                       | 同  | 笠井 久雄 | 3.31 | 任傳染病研究所藥劑手(七級俸)           | 毛利 勝利 |
| „    | 同                       | 同  | 菊池 常雄 | 4.1  | 陸軍派遣學生入學 一等獸醫             | 辻 嘉一  |
| „    | 同                       | 同  | 江島 眞平 | „    | 同 二等軍醫 錠 常重               | „     |
| „    | 傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當1ヶ月金80圓給與 |    | 高橋市五郎 | „    | 昭和7年4月1日付願研究生入學ノ件許可ス      | 木村 次郎 |
| „    | 同                       |    | 笠井 久雄 | „    | 同 川崎 治                    | „     |
| „    | 同                       |    | 菊池 常雄 | „    | 昭和7年4月1日付願研究生繼續ノ件許可ス      | 中山 二郎 |
| „    | 同                       |    | 江島 眞平 | 4.5  | 依願免本官 技手 若林 宏             | „     |
| „    | 傳染病研究所ニ於ケル痘苗製造研究業務囑託ヲ解ク |    | 佐藤 久藏 | 4.13 | 敘勳四等授瑞寶章 教授 佐藤 秀三         | „     |
| „    | 任傳染病研究所技手(八級俸)          |    | 同     | 4.19 | 依願傳染病研究所ニ於ケル血清製造研究業務囑託ヲ解ク | 澤野 秀作 |
|      | 同                       |    | 同     | 4.23 | 朝鮮へ出張ヲ命ス 技手 佐藤 久藏         | „     |
|      |                         |    | 同     | „    | 同 囑託 笠井 久雄                | „     |
|      |                         |    | 同     | 4.26 | 高木ト改姓 同 土屋 良信             | „     |
|      |                         |    | 同     | 4.28 | 依願免本官 技手 小川 孝             | „     |
|      |                         |    | 同     | 4.28 | 傳染病研究所ニ於ケル治療研究業務ヲ囑託ス      | 小川 孝  |
|      |                         |    | 同     | „    | 傳染病研究所ニ於ケル治療研究業務囑託ヲ解ク     | 高木 堯夫 |
|      |                         |    | 同     | „    | 任傳染病研究技手                  | 高木 堯夫 |
|      |                         |    | 同     | „    | 依願傳染病研究所ニ於ケル治療研究業務囑託ヲ解ク   | 杉島 一郎 |

テアル。著者ハコレ等ノ内最ニ凝集素ノ細胞間ノ Cohesive force ヲ増加セシメ Conglomeration ヲ容易ニセシムルニ至ルデアラウトノ考察ニ重キヲ置キシカモコノ力ハ細胞内ノ内部摩擦即チソノ比較粘度ヲ測定スルコトニヨリソノ比較値ヲ得ルニ至ルモノトノ想定ノモトニコノ實驗ヲ始メタ。

著者ハ羊ノ血球浮游液ヲ用ヒ Hess ノ粘度計ヲ使用シテ測定シタ。凝集素ノ血清ハ家兔血清テ免疫價1000倍テアル。電解質トシテハ0.85%ノ食鹽水、溫度ハ室温テ測定シタ。

扱テ實驗ノ結果トシテ、免疫血清ト正常血清トノ粘度ニ及ボス影響ノ度ヲ見ルト免疫血清ハ正常ノ血清ニ比シ著明ニソノ粘度ヲ増強セシムコトヲ知ツタ。而シテソノ粘度ノ増加ハ浮游液内ニ存在スル免疫血清ノ量ニ比例ス

ル。又ソノ粘度ノ増加ハ免疫血清ヲ添加スルト直ニ現ハレ途ニ血球ガ凝集スルニ至ルマデ粘度ノ増加ハ進ンデユク。次ギニ血球ノ量ト粘度トノ關係ヲ見ルト血球量多キ程、又添加免疫血清ノ量多キ程粘度ノ増加ハ極メテ著明トナル。モトヨリカ、ル變化ハ正常血清添加ノ場合ニハ決シテ見ラレナイコトデアツテコレ等ノ點ヨリ考ヘルト細胞間ノ Cohesive force ハ正常並ニ免疫血清添加ノ血球ノ粘度ヲ比較スルコトニヨリ、ソノ比較値ヲ求ムルコトガ出來ル。又カ、ル測定ノ結果ハ著者ガ最初ニ述ベタ想定ノ如ク凝集反應ニ於テハ凝集素ハ細胞間ノ Cohesive force ヲ増加セシムコトニヨリ細胞ノ Conglomeration ヲ容易ナラシムニ至ルモノトノ考察ヲ得ルコトガ出來ル。

## 雜 報

### 學術集談會開催

5月26日(木)午後1時ヨリ所内講堂ニ就テ學術集談會開催サル。演題次ノ如クテアル。

1. 發疹チフス 感染海濱ノ白血球像殊ニ單核細胞ノ形態學的研究  
飯淵かゝる君
2. 本邦ニ於ケル傳染病ノ季節的分布  
山岸 精實君
3. 急劇ナル溫度ノ變化ガ蛋白代謝ニ及ボス影響  
柏崎 晃君
4. 無機酸類ノ殺菌作用  
鐵本 總吾君
5. 水ニヨル傳染病ノ流行(綜説)  
野邊地慶三君

### 學友會へ寄附金

一金六圓八拾五錢 村松 楠雄君

### 五月中職員異動調

月日	異動事項	官 職	氏 名
5. 2	陞敘高等官五等	助教授	細谷 省吾
5. 4	東京府下へ出張ヲ命ス		
		囑 託	福島 件次
5. 5	任傳染病研究所技師		
		長崎醫科大學教授	阿部 俊男
		敘高等官三等 同	同
5. 5	依願傳染病研究所ニ於ケル治療研究業務囑託ヲ解ク		野上 隆
5.12	依願免本官	技 手	寺岡 辰
5.12	昭和7年5月10日付願研		
	究生入學ノ件許可ス		岡本 正三
5.16	敘從五位	技 師	阿部 俊男
5.16	敘從六位	助教授	細谷 省吾
5.16	大阪府下へ出張ヲ命ス		
		教 授	三田村篤志郎



# 雜 報

## 遠山博士歸朝

豫テアメリカニ留學中ノ遠山技師ハ6月15日神戸着無事歸朝サレタ。

## 學術集談會開催

6月16日午後1時ヨリ所内講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレタ。演題ハ次ノ通りデアル。尙當日ハ谷口阪大教授ノ天然痘病原體問題ガ人氣ヲ呼ンテ廣イ講堂モ滿員盛況ヲ呈シタ。谷口教授ノ2時間ニ近イ演説ノ後、東北ノ太田正雄教授ヲ始メ、助川博士、三田村教授、北研ノ平野博士ノ追加討論ガアリ大變賑ツタ。

### 演 題

1. 主榮養素ヲ異ニセル場合ニ於ケル筋勞作ノ血糖量ニ及ボス影響、其他二三ノ變化ニ就テ 武田 英一君
2. 大腸菌族ノ鑑別培養法ニ就テ 手塚 悦郎君
3. 急劇ナル溫度ノ變化ガ血液殘餘窒素ニ及ボス影響 柏崎 晃君
4. 蛇毒ノ所謂「レチチナーゼ」ニ就テ 細谷 省吾君 谷 茂君
5. (1)天然痘病原體ノ研究  
(2)水痘ノ病原體ニ就テ  
(3)モルルスクム、コンタギオズムニ於ケルリップシユツ氏小體ノ意義ニ就テ  
谷口 腴二君 細川 正一君  
陸 四郎君 古村 真久君  
中村 復三君 上月 實君  
笠原 鶴夫君 川村 一郎君  
松本正三君

## 阿部博士歡迎會開催

先キニ長崎醫大教授カラ當所技師ニ轉任サレタ阿部博士ノ歡迎ヲ主トシ、例ノ天然痘病原體問題ヲ提ゲテ上京中ノ谷口、細川ソノ他

ノ諸氏ノ慰勞ヲ兼テ懇親會ガ、16日ノ集談會終了後直チニ、學士會館テ開催サレタ。尙ホ當日ハ楠本阪大醫學部長、太田東北帝大教授ノ出席ガアリ極メテ盛會デアツタ。

## 學友會へ寄附金

- |          |        |
|----------|--------|
| 金7圓46錢也  | 河本 禎助君 |
| 金52圓81錢也 | 武田 德晴君 |

## 6月中職員異動調

月日	異動事項	官 職	氏 名
5. 2	昭和7年5月2日付願研究生繼續ノ件許可ス		南 茂 夫
5. 2	昭和7年5月2日付願研究生繼續ノ件許可ス		江良 一雄
5. 3	昭和7年5月2日付願研究生繼續ノ件許可ス		大出 富吉
5.26	大阪府下出張ヲ命ス	教 授	二木 謙三
〃	大阪府及兵庫縣下へ出張ヲ命ズ	技 師	城井 尙義
5.31	神奈川縣下へ出張ヲ命ス	囑 託	田宮 貞亮
6. 1	昭和7年6月1日付願研究生繼續ノ件許可ス		宮澤 國丸
6. 3	東京府下へ出張ヲ命ス	技 手	工藤正四郎
〃	同	技 手	小栗 一好
6.21	任傳染病研究所技手		川喜田愛郎
〃	同	中村 茂一	藤原 正
〃	同	高橋 忠雄	加地 信
〃	同	清水 文彦	中村 茂一
〃	傳染病研究所ニ於ケル治療研究業務囑託ヲ解ク		中村 茂一
〃	傳染病研究所業務ヲ囑託ス	寺 岡 辰	近藤 宙二
〃	同	北川 安信	酒井 臯二
〃	同	坂野 信雄	相良 貞直
〃	同	中山 高志	原 滋
6.30	齊藤ト改姓	技 手	高木 堯夫

雜 報

學友會へ寄附

金5圓19錢也 木村 政長君  
 金2圓78錢也 白 杵 仁君  
 金58圓89錢也 北條 圓了君

7月中職員異動調

月日 異動事項 官職 氏名  
 6.30 昭和7年6月29日付願研究生退學ノ  
 件許可ス 中島義四郎  
 „ 東京府下へ出張ヲ命ス  
 囑託 福島 伴次  
 „ 神奈川縣下へ出張ヲ命ス  
 技手 工藤正四郎  
 „ 同 同 小栗 一好  
 „ 内科學研究ノ爲滿1年間亞米利加合衆  
 國及獨逸國ニ在留ヲ命ス  
 同 菅野 拓三  
 7.6 依願傳染病研究所ニ於ケル各種豫防液  
 製造研究業務囑託ヲ解ク  
 鯛瀬 國一  
 „ 傳染病研究所業務ヲ囑託ス

石井信太郎

7.6 依願免本官 技手 小穴 正徳  
 „ 依願免本官 技手 岡 正  
 „ 傳染病研究所ニ於ケル治療研究業務囑  
 託ヲ解ク 戸田 又生  
 „ 任傳染病研究所技手 戸田 又生  
 „ 傳染病研究所業務ヲ囑託ス  
 „ 同 小穴 正徳  
 „ 同 岡 正  
 „ 昭和7年7月5日付願研究生入學ノ件  
 許可ス 新見 正喜  
 7.15 昭和7年7月11日付願研究生入學ノ  
 件許可ス 高田 周平  
 „ 昭和7年7月11日付願研究生退學ノ  
 件許可ス 高田 眞  
 „ 同 守口 武次  
 7.16 依願傳染病研究所ニ於ケル蛇毒研究業  
 務囑託ヲ解ク 寺尾 秀三  
 „ 傳染病研究所業務ヲ囑託ス  
 楠 信男

第16卷 第7號 土本論文正誤表

頁數	(誤)	(正)										
658頁第20表	$V_{33} \cdot \text{---} \cdot V_{34} \cdot \text{---} \cdot$	$V_{33} \cdot \text{---} \cdot V_{34} \cdot \text{---} \cdot$										
666頁	1頭平均8.857	1頭平均9.333										
672頁下ヨリ第8行目	第17表	第29表										
673頁第29表 15/9日ノ下4行目ノ空白ニ		45gヲ										
679頁第38表	Hypophysenvorderlappen	Hypophysenhinterlappen										
679頁第39表	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">H</td> <td><math>h_6</math></td> <td></td> </tr> <tr> <td><math>h_7</math></td> <td></td> </tr> </table>	H	$h_6$		$h_7$		<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">H</td> <td><math>h_6</math></td> <td>0.025g ♀H.H.L.</td> </tr> <tr> <td><math>h_7</math></td> <td>0.033g ♀H.H.L.</td> </tr> </table>	H	$h_6$	0.025g ♀H.H.L.	$h_7$	0.033g ♀H.H.L.
H	$h_6$											
	$h_7$											
H	$h_6$	0.025g ♀H.H.L.										
	$h_7$	0.033g ♀H.H.L.										
680頁結論(1)ノ	體重瓦	體重百瓦										
682頁第4圖	幼若白鼠( $V_2$ )	幼若白鼠( $V_1$ )										

見ルト若シ protein ナラバ分子が相當小サイ モノデアラウ。

## 雜 報

### 西部博士逝ク

新潟醫大教授西部増治郎博士ハ、恙蟲病ニ感染サレ、去ル8月13日遂ニ逝去サレタ。氏ハ大正9年東大醫學部ノ出身テ卒業後直ニ傳研ニ入所、病理學部ニアツテ長與所長ノ指導ノモトニ、實驗病理ヲ研鑽サレ昭和5年6月新潟醫大教授ニ任セラレタ少壯病理學者デアツタ。同氏ハ生前多數ノ業績ヲ世ニ出サレテキルガ今ソノ跡ヲタヅテ見ヨウ。

傳研入所後間モナク、流行中デアツタ「インフルエンザ」ノ研究ニ從事サレ、國崎、中島、井上ノ諸氏ト共ニ猿ニ於ケル「インフルエンザ」菌接種試験ヲ發表サレテキル。次イテ大正13年ノ夏嗜眠性腦炎ノ大流行アルヤ谷口博士ニ從ヒ、流行地香川縣ニ出張サレ主トシテ病理組織學の方面ノ檢索ヲ擔任サレタ。一度ソノ研究成績ヲ「家兎ニ於ケル實驗的流行性腦炎ノ病理組織學的研究。附家兎ノ偶發性腦炎ニ就テ」ト題シ病理學界ニ發表サルヤ、幾多ノ新知見ニヨツテ、多大ノ注目ヲ引キ、同學界ノ名譽賞ウイールビヨウ賞ニスラ擬セラニ至ツタ。同氏ハ大學ノ學生ノ頃既ニ記錄的ナ優秀ノ成績ヲ作リソノ秀才ヲ謳ハレタ程デアルガ、此業績ニヨツテ早クモ研究家トシテ同氏ノ將來ニハ多大ノ囑目ガカケラルニ至ツタ。尙同氏ハ此研究ニヨツテ昭和2年醫學博士ノ學位ヲ授與サレタ。

次イテ「細菌ノ「オキシダーゼ」反應。其ノ一、オキシダーゼ反應ノ形態學ト分布。其ノ二、オキシダーゼ」ノ性狀殊ニ鐵トノ關係ニ就テ」又安藤氏トノ共著「狂犬病街上毒ト固定毒トニ於ケルテグリ氏小體ノ形態學的差異ノ原因及ビ診斷價値ニ就テ」等續々ト立派ナ業績ヲ世ニ送ラレテキル。丁度コレ等ノ研究ノ完成サレタ頃ロックフェラー財團ノ留學生ニ推舉サ

レ、昭和2年ノ夏アメリカニ向ケ留學ノ途ニツカレタ。在米中ハ主トシテ Baltimore ノ Lewis ニ師事シ組織培養ノ研究ニ從事サレタ。ツイテ獨逸ニ渡リ Fisher ノ教室ニアツテ1年近ク尙一層組織培養ノ研究ヲ積マレタ。コノ留學期間ニナツタ仕事ハ次ノ三篇デアル。

On the cultivation of kidney tissue from the adult toad.

Growth of endocardial cells from the chick embryo heart in vitro.

A pure strain of endocardial cells.

コノニ特筆スベキコトハ、コノ滞歐米ノ機會ニ殆ンド全世界ノ組織培養學者ノ門ヲタ、キ斯學研究進歩ノ跡ヲ總攬サレタコトデアツタ。コノ行脚ハ例ヘバ昔ノ武者修業ノ旅ニモ比スベキモノデ、氏ノ才幹ト氣魄ヲ以テセズンバ凡庸ノ到底擧テ及ブ所テハ無カツタ。尙コノ見聞記ノ一篇ハ「歐米ニ於ケル組織培養ノ研究」ニ收メラレ、最後ニ In Osten doch Neues ト結び自信ノ程ヲ見セテキル。

昭和4年ノ暮、留學ヲ終ヘテ歸朝サルヤ間モナク招レテ新潟醫大ノ病理學教授ニ任セラレタ。

新潟醫大ニ至ツテハ、修得サレタ組織培養ノ術式ヲ *Rickettsia orientalis* ノ培養ニ用キ助手細野、宮澤ノ兩氏ト共ニ、「組織培養内ニ於ル *Rickettsia orientalis* Nagayo ノ増殖」「組織培養法ニヨル恙蟲病々原體 (*Rickettsia orientalis*ニ關スル研究「恙蟲病々原體 (*Rickettsia orientalis*) ノ累代組織培養法ノ改良法ニ就テ」「血管内皮細胞ト恙蟲病々原體 (*Rickettsia orientalis*) トノ關係ニ就テ」「恙蟲病々原體 (*Rickettsia orientalis*) ノ三證明法(長與、(緒方)、(西部)ノ比較試驗」ト失繼ギニ劃期的ノ業績ヲ學界ニ送り、實ニ目覺シイ活動ヲ續ケラレツ、アツタ。傳ヘ聞ク所ニヨルト氏ノ最終ノ

目的ハ細胞ナキ培地テ Rickettsia ノ純培養ニ  
アツタトノコトデアアル。勿論コノ研究ハ容易  
ナラザル難事業テハアルガ氏ノ秀レタ 頭腦ト  
旺盛ナ研究心トヲ以テスレバ、必ズシモ不可  
能ノコトテ無ク、學界ノ注目ハ實ニ氏ノ研究  
ニ集ツテキタカノ觀ガアツタ。若シコノ研究  
ガ氏ノ手ニ依ツテ解決サレタラ、獨リ我が學  
界ノタメニ氣ヲ吐クノミナラズ純粹ナル「ワ  
クチン」ノ製造ヲ可能ナラシメ引イテハ豫防  
及ビ治療方面ニ一大光明ヲ齎スコトハ想像ニ  
難クナク人類ノ幸福ニ寄與スル所亦大デアツ  
タデアラウ。實ニ同氏ノ將來ニハ輝カシイ世  
界ガ待ツテキタト云フベキデアアル。然ルニ天  
コノ人ニ齡ヲ假サズト云フカ途ニ研究ノ途上  
ニアツテ病ヲ得テ斃レタコトハ返ヘス返スモ  
残念ナコトデアアル。

一度氏ノ病輕カラザルノ報ニ接スルヤ傳研  
カラハ三田村教授ガ親シク氏ノ病ノ床ヲ訪テ  
友人知己カラハ見舞ノ電報ガ集ツタ。氏ハ  
一々ソノ友情ヲ喜ンテ受ケタサウデアアル。イ  
ヨイヨ病篤クナツタ時、熱ニ疲レタ氏ノ頭ヲ  
往來シタモノハ、氏ノ研究生活ノ半ヲ築イタ  
傳研ニ於ケル樂シカリシ生活ノ追憶ノ夢デア  
ツタトノコトデアアル。

氏ノ長逆ガ舊ヘラルヤ都下ノ新聞ハ擧ツテ  
生前ニ於ケル氏ノ業績ヲタ、へ、野口英世博  
士以後ニ於ケル學界ノ一大犠牲デアルト報ジ  
タ。又新潟醫大ニアツテハ大學葬トシ、コノ  
偉大ナル犠牲者ノ靈ヲ厚ク葬ツタ。傳研カラ  
ハ學友會ヲ代表シ三田村、田宮ノ兩教授ガ參  
列シタ。

行年 41、兼子夫人トノ間ニハ 1 女ガアル。

### 滿鐵沿線ニ於ケル「コレラ

#### 検査概況

先キニ關東廳ノ招聘ニ依ツテ傳研カラ池  
井、柳澤、山岡ノ諸氏ガ防疫醫トシテ出張サレ  
タガ、池井氏ハ四平街、柳澤氏ハ大連、山岡氏  
ハ沙河口ニアツテ、ソレゾレ職務ニ精勵サレ  
テキル。最近池井氏カラ高木教授宛防疫ノ情  
況ニ就キ通信ガアツタ。今興味アル二三ノ點

ヲ紹介スルト次ノ如クデアアル。池井氏ノ居ラ  
レル四平街ハ人口二萬テ内四千ハ日本人デア  
アル。守備隊一個中隊ガキテマツ 匪賊襲來ノ心  
配ハ無イ相デアアル。四平街自身ニハ「コレラ  
ノ發生ハナイガ蒙古ノ通遼ニハ千六七百名ノ  
患者ガ發生シテ居リ、コノ通遼トハ四洮線テ、  
6—7 時間テ連絡出來ル位置ニアルノテ、  
同地方カラクル乗客ニ萬一保菌者ガ居タラ、  
滿鐵沿線ニ流行ヲ起ス 危險性ガアルノテ、乗  
客ニ就テ望診、檢便ガ必要トナツテクル次第  
デアアル。モウ 1 ツノ仕事ハ支那街ノ住民ノ豫  
防注射デアアルガ、支那人ハ注射ヲ非常ニ嫌フ  
ノテ注射濟ノモノニハ、住所氏名ヲ誓イタ證  
明書ヲ與ヘルコトニナツテキルガ、コノ證明  
書ヲ胡麻化スノテ色々喜劇ガ起ツテクル相テ  
アル。例ヘバ子供ノ證明書ヲ親ガ持ツテ來テ  
見タリ、絆創膏ヲ腕ニ貼ツテ胡麻化サウトシ  
タリ、甚シイノニナルト證明書ヲ買フテ來ル  
者モアルトノコトデアアル。蠅ノ侵入ニハ相當  
惱マサレテキル様テ、豫防注射ノ際ニ「ワクチ  
ン注射用ノ「シャーレ」内ニ飛ビ込マレタリ、苦  
力ハ苦力テ咽喉飛ビコマレ、苦シマギレニ嘔  
吐ヲ催スノテ「コレラ患者ニ間違ヘラレ、急報  
ヲ驅ケツケテ見ルト斯ノ次第ダト分ルナド内  
地テハ想像出來ヌ 數々ノコトガアルトノコト  
デアアル。

### 8 月中職業異動調

月日	異動事項	官職	氏名
5. 1	陸叙高等官四等	助教授 兼技師	遠山 祐三
8. 5	大阪及京都府下へ出張ヲ命ス	技師	阿部 俊男
8. 9	新潟縣下へ出張ヲ命ス	教授	三田村篤志郎
8. 13	同	教授	三田村篤志郎
同	同	教授	田宮 猛雄
8. 24	依頼傳染病研究所ニ於ケル治療研究 業務囑託ヲ解ク		立原 三郎

### 學友會へ寄附

金 27 圓 86 錢也

横井鎌次郎君

金 206 圓也

谷口 勝二君

glucose ノ分解が增シテクルノデアラウ。但シコノ考察ノ正シイカ否ヤハ目下研究中デアル。又培養基内ニ buffer ノ有無ト glucose ノ fermentation トノ關係ヲ見ルト。buffer ノナイ場合ハ fermentation が弱イ。之ハ培養基が早く酸性ニナルタメニ virus ノ發育が遮ゲラル結果デアル。

次ギニコノ virus ニヨル oxidation mechanism ヲ檢索シタ。コノ virus ハ aerobic デアル。從ツテ酸素ノ消費トカ methylene blue ノ還元が起ル筈デアル。實際 virus ノ培養基内ニ methylene blue ヲ加ヘルト methylene blue ノ還元が起ル。又二三日培養ノモノヲ遠心沈澱シ。ソノ沈澱ヲ Ringer 氏液ニ浮游サセタモノデモ methylene blue ノ還元が起ル。M/1000 ノ methylene blue 0.2ccヲ還元スルニ1時間ヲ要ス。然ルニ、コノ suspension ニ b<sup>o</sup>th 又ハ sodium lactat ヲ加ヘルト、ソノ還元速度ハ速カトナリ。同量ノ methylene blue ヲ還元スルニ8分ヲ要スルニ過ギナクナル。即チ lactic acid ハ hydrogen donatorノ役ヲナス譯デアルガ、コノ働キハ glucose, formate, succinate, alanine, hypoxanthine ニ依ツテハ

見ラレヌ。要スルニコノ virus ノ lactic dehydrogenase ノ作用ハ相當ノモノデ virus 1.5 mgm (dry weight) デ M/1000 ノ methylene blue 0.2ccヲ5分デ還元シ終ル。

斯ノ如クコノ lactic dehydrogenase ハ發育度ノ一標準ニナク得ル如ク見ヘルノデ。培養時間ト methylene 青ノ還元速度トノ關係ヲ調べテ見ルトソノ速度ハ初メノ第24時マデニ急劇ニ昇リ、ソノ後徐々ニ増加シ、第3日目ガソノ速度最モ早イ。ソノ後ハ漸次衰ヘテユク。但シ培地ニ glucose ヲ加ヘナイ時ハ、コノ關係ガ時間的ニ遅レテ現ハレル。

次ギニ nitrogen ノ metabolism ヲ檢スルタメ培養基内ノ ammonia ノ發生、amino nitrogen ノ増加等ヲ檢索シタガ、著明ナ變化ヲ認メナカツタ。コレニヨツテ見テモ、コノ virus ハ發育ニ必要ナル energy ヲ carbohydrate, lactic acid ノ分解ニヨツテ得ラレルノデ、protein 及ビ amino acid ハ energy source トシテ意義が薄イ。

尙コノ virus ハ酸性ニ對シテ鋭敏デアツテ pH 6.4 デハ發育が停止サレ、6.0 以下デハ死滅スルコトが確メラレタ。

## 雜

## 報

### 第73回講習會開講

9月13日、第73回講習會開講サル。但シ本講習ハ公衆衛生ノ講習が始メラレテカラ第4回目ニ當ル。講習生ハ13名デアル。

### 遠山・谷口兩博士ノ歡送會

9月13日 本所ノ遠山祐三博士ノ歸朝歡迎、阪大谷口博士ノ歐米出張送別ヲ兼テ、東京驛階上精養軒テ歡送會ヲ開催シタ。

### 本所建築工事進ム

本研究所建築工事ハ、9月19日ヲ以テ第6階塔ノ「コンクリート填」ヲ終リ、之ヲ以テ2800坪ノ「コンクリート填」ヲ完成シタ。目下

窓枠取付外部ノ裝飾工事が進メラレツ、アル。

### 學術集談會開催

9月20日集談會開催。演題ハ次ノ通りデアル。

1. 主榮養素ヲ異ニセル場合ニ於ケル筋勞作ノ血液像ニ及ボス影響ニ就テ

武田 英一君

2. 急激ナル溫度ノ變化ガ血液像ニ及ボス影響

柏崎 晃君

3. 波佐見熱ノ病原體竝ニ其自然保有者ニ就テ

阿部 俊男君

4. 歐米視察談(綜説) 遠山 祐三君

日佛生物學會成立

豫テヨリ本邦生物學者ノ間ニアツテ、待望サレテキタ、日佛生物學會ハ、今回二三有志ノ非常ナ盡力ニ依ツテ愈々成立ノ運ビニ至ツタ。去ル10月4日帝大山上御殿ニ於テ第1回總會が開カレ都下著名ノ生物學者ガ參集シ、會則、役員ヲ決定シタ。會長ニハ長與傳研所長、幹事ニハ日本人側ヲ代表シ佐藤秀三教授、佛人側ヲ代表シモット氏ノ就任ヲ見タ。尙事務所ハ東京市神田區駿河臺鈴木町26番地、日佛會館内ニ置カルコト、ナツタ。

同會ハ巴里ノ生物學會ノ聯盟學會デアツテ、ソノ事業ハマヅ日佛生物學者ノ親睦ト聯絡ヲ圖ル外、我邦生物學者ノ業績ヲ同會誌ナル Comptes rendus d. Séances de la Société de Biologie ニ特ニ本會ノタメ提供サレタ紙面ニ發表シ掲載シ、善ク世界ノ學界ヘ迅速ニ紹介ノ便ヲ計ラウトスルノヲ目的トシテキル。之ニ依ツテ從來ヤ、モスルト我邦生物學者ガ、發表機關ノ不備カラ受ケツ、アツタ「プリアリテート」ノ點テ損失カラ免ガル譯テ今回同學會ノ成立ハ我邦生物學研究者ニトツテハ何ニヨリノ福音デアアル。

學友會へ寄附

金 27 圓 83 錢

岡田 丈夫君

佐野 忠君

9 月中職員異動調

月日	異動事項	官職	氏名
8.15	敘正6位	技師	遠山 祐三
9.1	任海軍軍醫中尉	囑託	進藤 宙二
9.8	醫學博士ノ學位ヲ授與セラル	囑託	佐藤猪一郎
9.15	敘從7位	囑託	進藤 宙二
9.16	依願傳染病研究所ニ於ケル治療研究業務囑託ヲ解ク		佐藤猪一郎
9.20	昭和7年9月20日付願研究生入學ノ件許可ス		渡會 次郎
9.20	東京府下へ出張ヲ命ス	囑託	中村二三郎
„	神奈川縣下へ出張ヲ命ス	„	同 人
9.28	千葉縣下へ出張ヲ命ス	„	同 人
„	朝鮮へ出張ヲ命ス	„	笠井 久雄
9.29	京都大阪及山口熊本縣下へ出張ヲ命ス	„	菊地 常雄

cream, uranyl acetate, tungstic acid 及ビ magnesium chloride + ammonia 等デア。第三群トシテ 20% 以下ノモノトシテハ magnesium hydroxide cream, calcium chloride without added phosphate 等デア。即チ之ニ依ツテ見テモ、precipitating cation ノ荷電數ト沈澱効果トハ殆ンド無關係デア。事ガ分ル。

次ギニ沈澱サレタ toxoid ノ純粹度ヲ測ルタメニ沈澱サレタ toxoid ノ含有スル N ヲ測定シ、ソノ Lf units ト比較對照シテ見タ。即チ mgrm N ニ對スル Lf ノ價テ示メスコトニシタ。ソレニヨルト同ジ precipitant ヲ用ヒタ場合デモ、ソノ量少キ時ハ purity ハ高度デア。ガ收獲度ハ低イ。例ヘバ alum ノ場合デモ 26 Lf units per cc, 8.4 Lf units per mgrm N ノ如キモトノ toxoid カラ、加ヘル alum ノ量ヲ色々カヘテ、toxoid ヲ 100% 沈澱セシメ得タ

場合ニ Lf mgrm N ハ 63 デアツタ。然ルニ沈澱セル toxoid 87.5% ノ時ハ Lf mgrm N ハ 76 デアル。

最後ニ實際問題トシテ斯クシテ沈澱セル toxoid ヲ食鹽水ニ emulsion トナシ海狸ノ皮下ニ注射シ antitoxin ノ出來方ヲ見ルト對照ノモトノ toxoid ヲソノマ、注射シタ場合ヨリモ成績ガヨイ。勿論中ニハ金屬鹽ノ局所作用ガ強クテ注射出來ヌモノモアル。是等ノ免疫元ニ就テソノ優劣ヲ見ルト aluminium cream, alum, zirconium 等ガヨイ。併シ zirconium ハ高價デア。シ、aluminium cream ハ製法ガ厄介デア。カラ實用化サレ難イ點ガアル。實際問題トシテ應用サレ得ルモノハ、alum ノ外ニ calcium phosphate ハ相當免疫元性ヲ持ち且ツ安價ニ得ラル、カラ實際ニ用ヒラル可能性ガアル。

雜

報

學術集談會開催

10月20日集談會開催。演題ハ次ノ通りデア。

演題

1. 妊産婦及ビ初生兒ノ微毒血清診斷ニ就テ 中山二郎君
2. 各種「ヒドラヂン」誘導體ノ貧血ヲ起ス力並ニ血液中ノ酸素ニ及ボス影響ト其ノ化學構造式トノ關係ニ就テ 南茂夫君
3. 一鹽基脂肪酸類ノ殺菌作用 鐵本總吾君
4. 酸化還元電位ノ應用ニヨル諸實驗ニ就キテ(綜説) 佐藤秀三君

鳩山文相當所視察

鳩山文相ハ10月22日來所當所ノ研究作業状態ニ就キ視察シタ。

群靈祭舉行

11月5日例年ノ通り家畜群靈祭ヲ舉行シタ。

學友會へ寄附

金200圓也 池井新彌君

10 中職員異動調

月日	異動事項	官職	氏名
10. 1	千葉縣下へ出張ヲ命ス	囑託	中村二三郎
10. 5	”	技師	城井 尙義
”	”	”	佐藤 久藏
10.12	京都、大阪愛知ノ二府一縣下へ出張ヲ命ス	教授	長與 又郎
”	”	”	宮川 米次
”	大阪府及岡山縣下へ出張ヲ命ス	”	佐藤 秀三
”	”	囑託	田宮 貞亮
”	東京府下へ出張ヲ命ス	教授	宮川 米次
”	愛知縣下へ出張ヲ命ス	”	二木 謙三
10.20	召集解除	囑託	島崎 正雄
”	大阪府及岡山縣下へ出張ヲ命ス	”	田中 芳雄
10.22	大阪府下へ出張ヲ命ス	教授	宮川 米次
10.24	東京府下へ出張ヲ命ス	囑託	福島 伴次
10.29	昭和7年10月28日付願 研究生退學ノ件許可ス	”	南 茂夫

最近ソレガ d-gluconic acid デアルコトヲ確メ得タ。今ソノ研究ノ大要ヲ記スト次ノ如クデアアル。

Glucose ハ單ニコノ dehydrogenase ノ存在ノミデハ、空氣中ノ酸素ニ依ツテ酸化サルモノデハナイ。若シ同時ニ cytochrome 及ビ indophenol oxidase system ノ如キ oxygen activating system が存在スルカ或ハ methylene 青ノ如キ水素ノ中間的 carrier が存在スル時ニ於テノミ酸化サレ得ルモノデアアル。大量ノ實驗的研究ニハ methylene 青ヲ用ユル方が簡單デアアルカラ、著者ハ以下ノ諸實驗ニ於テ何レモ methylene 青ヲ用ヒタ。

Glucose 酸化ノ終末產物が何デアルカヲ知ルタメマツ次ノ様ナ豫備實驗ヲ試ミタ。マツ Barcroft differential manometer ヲ用ヒテ葡萄糖ノ酸化ニ伴フ酸素消費量ト酸化產物トノ量的關係ヲ調べテ見タ。所ガソノ關係ハ丁度 1分子ノ酸素ガ消費サレテ 1分子ノ酸化物ヲ形成スル割合デアアルコトヲ知ツタ。コノ事實カラ見テ、形成サレタ酸ハ glycuronic acid, ketogluconic acid, saccharic acid 等デハナイコトヲ知ツタ。何故ナラバ、コレ等ノ酸ガ形成サル、タメニハ 1分子以上ノ酸素ガ消費サレテバナラスカラデアアル。

尙ホコ、ニ形成サレタモノガ乳酸デナイコトハ既ニ確メデアアルガ、ソノ他焦性葡萄發

デナイコトモ、除蛋白後 nitroprusside, guaiacol test 何レモ陰性デアアルコトニヨリ知ルヲ得タ。

又コ、ニ得ラレタ酸化物ハ basic lead acetate デ沈澱シ、又  $\text{CaCO}_3$  デ處置スルト calcium 鹽ヲ作ル。但シコノ鹽ハ水ニ可溶性デアアルガ alcohol ニヨツテ沈澱スル。又タコノ酸ハ Fehling 液ヲ還元セメガ硝酸銀ヲ還元スル。即チコレ等ノ成績カラコ、ニ形成サレタ有機酸ハ gluconic acid デアルコトヲ大體知リ得タ。

著者ハ更ニコノ豫想ヲ實證スベク、コノ酸化物ノ calcium 鹽ノ結晶ヲ純粹ニトリ出スコトニ成功シタ。純結晶作製ニハ、コノ酸化物が alcohol 及ビ basic lead acetate デ沈澱スルモ水ニ可溶性デアアル性狀ヲ利用シ、是等デ處置スル操作ヲ反復スルコトニヨツテ得ラル。

尙ホ又著者ハコノ酸ニ phenylhydrazine ヲ働カセ phenylhydrazide ノ結晶ヲ得タ。コノモノハ、melting point  $200^\circ\text{C}$  デ、元素分析ニヨリ  $\text{C}_{12}\text{H}_{18}\text{O}_6\text{N}_2$  ナル價ヲ得テキル。

尙ホコ、ニ得ラレタモノガ dextro-form ノ gluconic acid ナルコトハ、ソノ calcium 鹽ニ就テ比旋光力ヲ檢シ  $[\alpha]_{\text{D}}^{20} = +8$  ナル價ヲ得テキル。

## 雜 報

### 西部増治郎博士追悼 學術集談會

サキニ恙蟲病デ急逝サレタ西部増治郎博士追悼學術集談會ガ、去ル 11月 17日午後 1時ヨリ所内講堂ニ於テ開催サレタ。田宮、谷、細谷、太田原諸氏ノ講演ノ後、長與所長カラ西部博士ノ業績竝ニ研究態度ニ就テ、別項綜説欄記載ノ如キ追悼講演ガアツタ。尙當日ノ演題ハ次ノ如クデアアル。

1. 癩及ビ微毒血清ニ現レル沈降曲線ニ關スル研究(第 2 報告) 田宮 貞亮君  
田中 芳雄君
2. ボトリヌス毒素精製法、免疫元性竝ニ毒素吸收等ニ就テ 谷 茂君
3. デフテリア豫防液ニ就テ(第 3 報) 細谷 省吾君  
小澤 英作君  
田中 哲之助君



- 4. 類菌ノ培養ニ關スル卑見 太田原豐一君
- 3. 故西部増治郎博士ノ醫學ニ關スル業績  
長興 又郎君

### 石原喜久太郎博士慰勞會

今春退職サレタ當所員石原博士ノ慰勞會ガ、同博士ノ還曆祝ヲ兼テ、去ル11月18日午後5時ヨリ上野精養軒ニ於テ開催サレタ。當日ハ石原博士竝ニ家族ヲ招待ノ上、知己、門下生醜金ノ慰勞金、伊原宇三郎氏揮毫ノ博士肖像額面ヲ贈呈シタ。

### 學友會會計決算報告

(昭和7年12月15日現在)

總收入	17435圓4錢	
內譯		
11224圓14錢	繰越金	
6210圓90錢	會費其他收入	
總支出		
5037圓86錢	印刷費其他	
差引	12397圓10錢	昭和8年繰越
內譯		
8854圓77錢	定期	
3458圓51錢	當坐	
83圓82錢	現金	

### 十一月中職員異動調

月日	異動事項	官職	氏名
10.13	昭和7年10月13日付願		

- 研究生繼續ノ件許可ス 齊藤 龍三
- 11. 2 臺灣へ出張ヲ命ス 教授 二木 謙三
- 11. 8 石川縣下へ出張ヲ命ス  
囑託 中村二三郎
- 11.11 東京府下へ出張ヲ命ス  
” 山岸 精實
- 11.14 福岡縣下へ出張ヲ命ス  
” 島崎 正雄
- ” 愛知及静岡ノ二縣下へ出張ヲ命ス  
” 菊地 常雄
- ” 神奈縣下へ出張ヲ命ス  
” 山岸 精實
- 11.16 千葉縣下へ出張ヲ命ス  
” 中村二三郎
- 11.17 昭和7年11月17日付願  
研究生退學ノ件許可ス 木村 次郎  
” 千葉縣下へ出張ヲ命ス  
囑託 中村二三郎
- 11.17 病理學、病理解剖學第一  
講座分擔ヲ命ス 教授 三田村篤志郎
- 11.18 神奈川縣下へ出張ヲ命ス  
囑託 山岸 精實
- 11.22 東京府下へ出張ヲ命ス  
” 山岸 精實
- 11.26 昭和7年8月26日付願  
研究生入學ノ件許可ス 宇賀 武俊